

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科	
科目名称	基礎栄養学					授業形態		講義	
科目コード	301400	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	川北 久美子								
授業概要	からだと栄養Ⅰ・Ⅱで学んだ知識をもとに、三大栄養素がエネルギー源として利用される機構や関与する酵素や補酵素とビタミン、ミネラルなどの微量元素の役割について学ぶ。またヒトの体で最も多い成分である水分が体内で果たす役割や電解質の役割、遺伝子発現と栄養の関わりについても学ぶ。【知識・理解の育成】								
関連する科目	事前からからだと栄養、からだと疾病を受講し、同時期に生化学を受講することが望ましい。履修後は臨床医学、応用栄養学、臨床栄養学を受講し理解を深め、応用力をつけることが望ましい。								
授業の進め方 と方法	書きこみ式のプリント教材を配布する。特に国家試験に出題される点を強調しながら埋めることで教科書の内容の理解を深めていく。理解しがたい内容に関しては、まず自身で教科書を読み、プリント教材に図式化する。その際に質疑応答しながら図式を完成し、理解を深めていく。また項目ごとに関連する国家試験問題を提示し、授業内容とリンクさせ、学んだことがどのように出題されるかを説明する。【知識・理解の育成】 * アクティブラーニングについて ①栄養学の歴史ではあらかじめテーマを与え、配布した資料などを基に調べ学習をして、グループで発表を行う。 ②ほぼ毎回小テストを行い、理解度を確認する。【汎用的技能の育成】【コミュニケーション・スキルの育成】								
授業計画 【第1回】	栄養学の歴史 与えられたテーマについて配布した資料などを基にグループでディスカッションをし、プレゼンを通して栄養学の歴史について理解を深める。								
授業計画 【第2回】	タンパク質の栄養① タンパク質の体内代謝について学ぶ。								
授業計画 【第3回】	タンパク質の栄養② アミノ酸の代謝について学ぶ。								
授業計画 【第4回】	糖質の栄養① 糖質の体内代謝について学ぶ。								
授業計画 【第5回】	糖質の栄養② 血糖とその調節、食物繊維・難消化性糖質の生理効果について学ぶ。								
授業計画 【第6回】	脂質の栄養① 脂質の体内代謝について学ぶ。								
授業計画 【第7回】	脂質の栄養② コレステロールの代謝と摂取する脂質の量と質の評価について学ぶ。								
授業計画 【第8回】	ビタミンの栄養① 水溶性ビタミンの代謝と栄養学的機能について学ぶ。								
授業計画 【第9回】	ビタミンの栄養② 脂溶性ビタミンの代謝と栄養学的機能について学ぶ。								
授業計画 【第10回】	ミネラルの栄養① 多量ミネラルの代謝と栄養学的機能について学ぶ。								
授業計画 【第11回】	ミネラルの栄養② 微量ミネラルの代謝と栄養学的機能について学ぶ。								

授業計画 【第12回】	水の栄養学的意義 生体内の水の分布と出納、体液の調節機構とその異常について学ぶ。
授業計画 【第13回】	電解質の栄養学的意義 体内の電解質の役割と体液の酸塩基平衡のメカニズムやその異常について学ぶ。
授業計画 【第14回】	エネルギー代謝 エネルギー代謝の概念やそれに影響を及ぼす諸要因、その測定法について学ぶ。
授業計画 【第15回】	遺伝子発現と栄養 遺伝子多型や栄養素に対する応答の個人差、生活習慣病発症との関連について学ぶ。
授業の到達目標	三大栄養素やエネルギー代謝、ビタミン、ミネラルの役割について理解し、説明できるようになること。 人体で最も多い成分である水の体内における特性や機能について理解すること。 栄養が人体におよぼす影響や疾病発症への関連を理解すること。 【知識、理解の育成】 【汎用性技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外の学修 【予習】	【予習】 予告された部分について指定された教科書を熟読し内容を把握しておくこと。(1時間程度)
授業時間外の学修 【復習】	【復習】 ほぼ毎回授業の最初に前回授業内容にかかる小テストを実施するので復習しておくこと。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	プリント教材の解答を毎回ユニバ上にアップロードするので、書き漏らしや書き間違いを追加訂正しておくこと。 小テストについては毎回答え合わせをする。回収後チェックして返却する。 定期試験について試験前後で必要事項の解説および質疑応答をする。試験に対する質問には個別でも対応する。
評価方法・基準	小テスト(10点)、定期試験(90点)
テキスト	基礎栄養学 改訂 第6版 柴田克己、合田敏尚 編集 (南江堂)
参考書	生化学・基礎栄養学 第2版 編者 池田彩子他(朝倉書店) 栄養士・管理栄養士のためのなぜ? どうして? 基礎栄養学 (MEDIC MEDIA) 栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第4版 田地陽一 編 (羊土社) 栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版 蘭田勝 編 (羊土社) 最新基礎栄養学第9版 吉田勉監修(医歯薬出版株式会社) 必要に応じて資料も配布する。
備考	